

平成27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1474200183	事業の開始年月日	平成12年10月1日
		指定年月日	平成12年10月1日
法人名	NPO法人介護グリーンハウス えがお		
事業所名	グループホームグリーンハウス		
所在地	( 234-0433 ) 神奈川県海老名市河原口1丁目10番10号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open">http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、小田急線及びJR相模線の厚木駅から徒歩で5分ほどの相模川河川敷を望む散歩道沿いにあり、広い庭のある家でいろいろ季節の楽しみが感じられます。春はお花が咲き乱れて、玄関先・リビング共に庭に咲いた花を飾っています。又 食卓にも庭で採れた、ミニトマト・茄子・きゅうり等がだされることがあります。食事の支度は利用者様にも材料切り等に参加して頂き、温かい料理をお出しして、食事の楽しさを感じていただいております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ケ`スマファースト 3階		
訪問調査日	平成28年1月25日	評価機関 評価決定日	平成28年3月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急線、JR相模線「厚木駅」から徒歩5分の、相模川河川敷を望む散歩道沿いにあります。広い芝生の庭がある2階建ての一軒家です。1ユニットの居室は1階に5部屋、2階には4部屋あり、階段には昇降機が取り付けられています。2階のリビングからは、大山の雄大な姿が眺められます。

<優れている点>

10年以上勤務している職員が複数在籍し、入れ替わりも少なく、利用者との関係が良好で、馴染みの関係が出来ています。利用者は家族的な雰囲気の中で自由な過ごし方が出来ています。地域の行事には積極的に参加しています。自治会祭りでは、壁飾りやちぎり絵など利用者が作った作品を展示して、皆で観に出掛けています。海老名市民音楽祭では、文化会館で黒田節や花笠音頭などの合唱を三味線に合わせて披露して、地域との交流を図っています。事業所のバザーや納涼祭には、近隣の人達や家族を招待しています。広い庭を開放して不用品の販売を行ったり、豚汁やお汁粉、焼きそば、混ぜご飯などを作り、利用者と一緒に楽しんでもらい、地域との関わりを大切にしています。

<工夫点>

市内にある同一運営法人の、「グループホームえがお」と毎月交流会を持っています。交代で訪問し、自己紹介、歌を歌うなどしています。互に情報交換をし、良いところを見習うようにしています。両事業所合同開催の家族会の後に、クリスマス会も開催しています。家族の出席率もよく、法人内の連携も保たれています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームグリーンハウス
ユニット名	グループホーム グリーンハウス

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「運営の理念」の中でも「家庭的な雰囲気」を最も大切にして、スタッフが家族の立場に立って考え（住みやすい家庭）「安らげる家」を目指しています。職員間でのミーティングを通じて、理念の共有を徹底しています。	運営の理念は「・人間の尊重・各人が役目を持つこと・家庭的な雰囲気」で、玄関や事務所に掲示しています。職員の名札の裏にも書いてあり、毎月のカンファレンスでも話し合いを行い、共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入しており、年に一度の自治会まつりには毎年利用者が制作した壁飾りや等を展示しています。お天気の良い日は、全員で参加して、屋台での焼きそば等を楽しみにしています。	年1回行われる自治会祭りに参加し、自治会館に利用者が作った壁飾り、ちぎり絵など数点展示しています。利用者皆で作品を観に行き、焼きそばや甘酒などの屋台も楽しんでいます。地域清掃にも職員が参加し、ゴミ拾いをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会主催の町内会清掃等は、参加できる利用者も職員と一緒にゴミ拾い、草木の運搬などを手伝っています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議からの成果が表れていることもあり、前年より開催回数を増やしています。民生委員など近隣の住民にも参加して頂き有事にも心強い備えができています。家族の訴え、要望などもとりあげ、運営に協力して頂いています。	運営推進会議は年3回実施しています。利用者や家族、民生委員、市職員、包括支援センター、後見人、地域のボランティアなどの参加があり、利用者の意見を行政や地域に聞いて貰っています。自治会には毎回案内していますが、参加が実現していません。	運営推進会議に民生委員の参加はありますが、自治会からの参加が実現していません。地域との連携をより深めるためにも、自治会からも参加してもらえるような働きかけや工夫が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の高齢介護課とは月に一度利用者の入退去等を報告しています。又、事故等が起きた際、早急に市の担当者に連絡するように、職員間で周知し、正確な実情を伝えられるよう体制を整えています。	海老名市へは、毎月メールで空き情報の連絡をしています。包括支援センターからは入居の相談があります。綾瀬、座間、大和、海老名の4市合同のケアマネジャー連絡会に参加し、情報交換や情報収集を行っています。市主催の勉強会にも参加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアは会議で常に話し合い、拘束をしなければ危険が考えられる場合は、関係機関・家族等に報告・相談しながら行うようにしています。鍵も防災の観点からも必ず1か所は誰でも開けられるようにしてあります。	身体拘束は行っていません。身体拘束マニュアルと勉強会などで、職員は理解を深めています。「身体の虐待、拘束は行わない」と行動指針にうたっており、掲示してあります。1階の裏出口は中からは自由に出られるようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「高齢者虐待を考える」の中の事例集を参考にしてミーティング内で職員の勉強会を定期的に行い、虐待への理解を深めるべく努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	市の「安心センター」（日常生活自立支援事業）を利用している利用者もあり、各職員も制度の基本的なことについては理解しています。運営推進会議には成年後見人等にも参加していただき、制度の細かい適用要件等説明を受け参考にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組みに関して、説明を行っています。重度化した場合や医療連携体制などについては、詳しく説明し、同意を得て、配布しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への家族の出席も多くなり、利用者の入退所・職員の入退職等の状況を報告しています。この機会に市高齢介護課や地域包括支援センターも含め、家族の意見・相談ごとを取りあげ、運営に反映しています。	運営推進会議で、利用者や家族の意見を取り上げ、市や包括支援センターを含めて内容を検討しています。また、利用料金を現金払いにしていることで、毎月家族が来訪した時に意見を聞いています。同一運営法人の事業所と合同で開催する家族会でも意見を聞いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングでの、職員の意見や提案を聞くことを大切にされています。日々、どんな小さな意見も一つ一つ丁寧に反映に努めて下さる事を期待します。	毎月のミーティングには、職員全員が参加し、理事長も参加しています。職員は理事長にも意見が言いやすく、可能な範囲で業務に反映し、働きやすい職場にしており、離職率が少なく、職員の入れ替わりもあまりありません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を積極的に行い、賃金に反映されています。長く勤めていただいているベテランスタッフが多く、高齢になっても働ける環境を作り、やりがいを持てるようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格取得を奨励し、職員のスキルの向上を図っています。研修等に積極的に参加させ、ミーティングなどいろいろな形で内容を紹介してもらい、他の職員にフィードバックしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣のグループホーム協議会に参加し、意見交換しています。その他同系列の事業所との交流会を行い（月1回）互いの支援方法等を聞きながら、優れている点を取り入れるようにしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の相談があった場合、まずは見学に来ていただき、本人の生活歴、希望等を聞き、こちらのできることを伝え、不安を少しでも軽くして頂けるよう働きかえています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が持っている不安や要望を面談の中でしっかり把握し、事業所としてどのような対応が出来るか質疑を受け、説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に家族に状況や要望を聞き、その人にとって、必要なサービスは何か確認し、早急な対応が必要な場合は、ケアマネ会・包括支援船センター等のネットワークにつなげていける準備をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の得意な分野を生かし、役割を持っていただき「職員と協力して暮らしを共にする」よう雰囲気づくりし、利用者と職員が近くなるよう努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族への便りや面談を通じて、本人の活動や様子を伝え続け、家族の絆をつなぐべく情報の提供や共有に努めています。家族の訪問をたいせつにして、お茶の時間など一緒にして、状況の変化を感じ取っていただけるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	バザーや納涼祭等の行事を催し、近隣や知人の方々に来て頂けるよう働きかけています。利用者の友人が訪問して、居室で歓談したり手土産を頂いて、お茶会している光景もみかけます。職員はお茶等の提供を心がけています。	知人が訪ねてきて居室で会ったり、一緒に散歩や買物に出掛けたりしています。墓参りに行きたい利用者には、付き添いの人を頼み、墓詣りと掃除をしてもらっています。バザーや納涼祭にも知人に来てもらえるよう働きかけています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士で問題が起こりがちな場面もあるので、職員ミーティングで情報を共有し、未然に防ぎつつ互いに関わりあえるよう努めています。利用者同士が支えあって生活できるよう、常に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	医療が必要になり、入院になった場合には、医療機関と連携を取りながら、その後の事の相談に乗ったり、助言したりして、家族の不安を聞くようにしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各職員の様々なアプローチからのフィードバックをもとに本人の意向の汲み取りに努めています。発語のない利用者の中には日々の様子を細かく観察し、思いをくみ取るようにしています。家族や過去の経歴等から本人の意向を推しはかっています。	利用者から相談しやすい環境作りをしています。2階にあるケアマネジャーの部屋はいつでも気軽に来てもらえるようにドアは開放しており、一対一で話をきいています。夜の7時～8時頃は相談しやすい時間帯でもあり利用者の話をゆっくり聞いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の経歴・得意なこと等を的確に把握できれば、その人のより深い理解やケアにつながるという職員間のコンセンサスができています。ミーティング等で時間を設け、話し合いを随時行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	表情の変化・行動を、見守りの中で注意して観察し、生活記録に記録しオープンソース化することによって職員間で周知、情報を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族から意見はもとより、職員からの意見、サービス方法等日頃より聞き入れ・連携しつつ、その意見を取り入れて計画作りに生かしています。個人記録、業務日誌などから状態の変化を観察し、随時見直しも行っていきます。	毎月1回ミーティング時にカンファレンスを行っています。職員の意見を聞き、本人や家族の意見を取り入れたプランを作成しています。ケアプランは本人や家族に説明し、同意を得るとともに職員全員が共有し、署名しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌や生活記録を通じて、利用者に対する連絡事項を共有し、それをもとにモニタリング・評価等に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	高齢化しつつあるグループホームのニーズを踏まえ、訪問看護などと連携して利用者に必要な医療をフォローしています。緊急の対応が必要な時には家族と連携して、受信等への付き添いの対応も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	社会福祉協議会にボランティアを依頼し、レクの相手や散歩等へ参加してもらっています。高齢者福祉施設の講堂を借りたりして行事等させて頂くことがあります。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科医療・歯科医療での連携体制を整えています。年1回の健康診断を受けることにより、利用者の体調管理に繋がっています。歯科も月4回の口腔ケアにより、風邪をひくことが減少し、神神の安定にもつながっています。	協力医は月に2回来訪して、利用者の診察および服薬指導などを行っています。協力医療機関には24時間対応のコールセンターがあり、利用者の体調が急変した際などにはいつでも対応できる体制です。協力歯科医は月に4回来訪しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	内科等の往診を受ける際、利用者の状況を健康管理の記録等で報告、参考にして頂いています。医療連携で来ている看護師にも、利用者の変化を伝え、受診に反映してもらっています。その際、薬の取り扱いや状態に応じた介護方法の指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、なるべく早期に利用者になじみのある職員が見舞いに出向き、安心して貰うことによって心身のダメージを和らげるよう努めています。医療機関との連携の取り方、方法などの説明会等にも参加しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	摂食・嚥下講習への参加や『高齢者の心身状況』『容態悪化時の施設対応』の冊子をミーティングで読み合わせして共有し終末期介護のスキルアップを図っています。医療連携で訪問している看護師からも情報・指導等を受け、重度化に備えた体制を整えています。	利用開始時に「高齢者の心身状況」と「容態急変時の施設対応」について説明しています。体調が急変した場合には、医師と相談の上、受け入れ先を決めています。重度化に際して最適な方法を取れるように、職員とミーティングで話し合い勉強しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	防災・防火管理責任者を置き、計画に基づき訓練を実施しています。消防署直通の電話を設置し、緊急時の通報手順を簡素化し、消防署員による定期的な訓練によって随時練度を挙げています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	緊急時の対応をマニュアル化しており、職員全員が周知しています。より、いっそう身につけるために、定期的に防災訓練の実施をしていくようにしたいと思います。民生委員さんにも、緊急時の見守り等をお願いしており、了解して頂いています。	防災訓練は年に2回行っています。今年度は6月に職員で実施し、2月は消防署との実施の予定です。食料や水、医薬品、衣料などを備蓄し持ち出し用の書類も整備しています。災害対策をミーティングで話し合い、マニュアル化して職員全員に周知しています。	民生委員の協力はありますが、防災訓練の際には、地域資源の一つとして、自治会および近隣の参加も期待されません。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の生まれ育った環境や、能力、前職、大切にしていることなどを鑑みて、一人一人の個性にあった声掛け、支援方法を考え『個別介護』を実施していきます。	原則として苗字に「さん」づけで呼称しています。個人の好みや希望を尊重し、一人ひとりにあった介護を心がけています。人権尊重とプライバシーの確保についての外部研修には、職員が交代で出席しグループホーム協議会の勉強会にも参加しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お茶やレクの時間に回想法のような形で本人の経歴等を聞いていく中で、本人の希望を引き出すような取り組みをしています。掃除等、役割の中の小さな場面で、本人が決定することができる機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は利用者の生活に寄り添うというスタンスを持ち、その人個々のペースを大切にケアしていくことを話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時、在宅時、散歩時等TPOに合わせてご本人の好み、希望を取り入れながらおしゃれを楽しんで頂いています。外出着に着替えたときは表情からとても明るさが伝わってきます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	美味しい食事を提供するだけでなく、出来る方には食事の支度にも加わって頂いております。材料切りでは大きい小さいのとそれはそれでとても味わい深いものです。	食材は業者から毎日配達されています。調理は職員が交代で担当していますが、野菜の皮むきや下ごしらえなどは、利用者が手伝っています。職員も一緒に食卓を囲み、食器の後片付けは各自で行っています。年に数回の外食も支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材は栄養士によって計算され、バランスのとれたものを業者に委託しています。水分の補給は、食事・おやつの際の他、身体を動かした後などは個別にも対応し、入浴時など必要な時に随時補給しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	朝・夕と歯磨きしています。できない所は職員が手伝っています。週1回歯科による口腔ケアも受けており、職員にも口腔ケアの大切さは理解されています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に排泄状況を記録し、記録をもとに尿意のない利用者もトイレで排泄できるように誘導しています。尊厳に配慮しつつ支援することを心掛けています。	排泄チェック表の活用や、利用者の表情や動作などから、意思表示を読み取ることにより、トイレでの排泄を心がけています。現在は半数以上の利用者が、排泄に関して自立しています。良好な状態を維持するように、職員間で話し合い支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	朝食にて繊維質の多い食材や牛乳を取り入れ、良い排便ができるよう働きかけています。ラジオ体操や健康体操も毎日欠かさず行っています。お天気の良い日には散歩・庭遊び等も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はどなたも楽しみにしている一つです。熱めは好きな人、温めが好きな人と本人の希望を聞きながら、曜日や順序を定め快適な入浴をと心がけています。	週2回の入浴を実施しています。入浴日や時間などは、できるだけ個人の好みに合わせています。通常職員が1対1で介助していますが、状況により、2人で介助することもあります。一人利用すること、湯をあふれさすなど、衛生面にも配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の安眠を確保する為、日中とくに午前は体操やレク、散歩等活動するようにしています。午後は自由な時間となっており、各々に好きなことをして心身を休めています。その結果、夜間は効率的な睡眠がとれているようです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を個人別にファイルしてあり最新の情報が一覧できるようになっています。変更等があった場合は居宅管理指導の薬剤師に相談し、職員が周知出来る様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクや食事の支度等で得意な事や出来ることを鑑み、役割を持っていただいています。行事等は利用者の希望を取り入れながら、計画を立てるようにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行事や外食は年間計画書を利用者の意見も踏まえて立てており、それに向けての準備で職員共々、実施する前からわくわくとした楽しみを持てるようにしています。散歩の機会もなるべく作り、近隣の催し物などにも出かけています。	毎日午前中に散歩するのが日課で、買い物にも同行しています。天候不順の日には、テレビ体操をしたり風船割りゲームなどをして、身体を動かす工夫をしています。行事の外出については、初詣や花見、納涼祭など年間計画を立てて実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が自由に使える小遣いと小遣い帳を準備してあり、買い物の際は本人に支払いをして頂くよう支援しています。バザー等の際も楽しみながら自分で払うという自信と喜びを感じて頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年職員が書く作業を手伝い家族に年賀状を出して、交流の絆を切らさない様に援助をしています。家族からのプレゼントが届いたりした場合にはお礼の電話をするように支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは、夏は涼しく冬は陽ざしが良く暖かで明るい作りになっており、日中は殆どそこで談話をしたり、歌を唄ったりして過ごしています。玄関や洗面所には香りのよいお花を飾り、消臭にも気を付けています。個々の居場所作りを心がけています。	ゆったりとした造りのリビングからは、相模川や丹沢山系が見渡せます。リビングや廊下は、職員と利用者が共同で毎日清掃しています。壁には利用者の作品や行事写真、生花などが飾られ、和やかな雰囲気です。毎朝窓を開けて空気を入れ替え、室温や湿度にも気をつけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂を含めたリビングは一体の作りではあるが、テーブルも横長であったり、離れた場所にソファを設置しており、共用でありながら一人のスペースを作れるよう配置に工夫をしています。午後は、居室にいたり、リビングで談話したり自由に過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族は自由に来所し、部屋に入って頂き、使い慣れた衣類や家具、仏具、小物を置いて以前となるべく変わらない居住空間作りが出来るよう配慮しています。季節の変わり目には家族と一緒に衣類の入れ替え等も行っています。	居室により広さが違いますが、それぞれ居心地よく過ごせるように落ち着いた感じに仕上がっています。エアコンやベッドは備え付けで、寝具や衣類、家具は各自が持ち込んでいます。自立している利用者は、自分で居室の清掃をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の個人差は大きく、それぞれの持っている力に応じた環境づくりをしています。軽度の方には動線の工夫や手すり等、一人で動けない方には昇降機や車いすなどを使っているが、少しづつでも「立つ、歩く」して頂き、持つ力に働きかけています。		

平成27年度

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム グリーンハウス

作成日： 平成 28年4月6日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	○運営推進会議を活かした取り組み 自治会関係者の参加が実現していない。	運営推進会議の回数も徐々に増やしており、家族や民生委員・ボランティア等の参加もあるが、自治会からも参加して頂けるように働きかける。	今年度は自治会の総会や清掃活動にも積極的に参加して、地域に密着したグループホームを理解していただき、運営推進会議への参加をお願いする。	6ヶ月
2	35		災害時に近隣住民や自治会関係者にも協力して頂けるように、防災訓練にも参加して頂けるようにお願いする。	施設で行っているバザー等への案内をして、日頃から親睦を深める様にしていく。毎年行っている自治会まつりへの作品の出品・参加等も継続して、近隣の方に、ホームの存在を周知していただく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月